

| | | |
|--------|-------------|----------|
| 人口と世帯 | 人口 | 390,999人 |
| | 男 | 194,164人 |
| | 女 | 196,835人 |
| | (前月より) | 377人増 |
| 世帯 | 156,898世帯 | |
| (前月より) | 228世帯増 | |
| | (14年7月1日現在) | |



落書きを消す作業も大変です

公共施設などで目立つ落書きは、今、全国的にも大きな問題になっています。町田市でも商店街等のシャッターや壁面などに心ない人によって書かれた落書きが目立ちます。

そこで市では、落書きを一掃するため「商店街落書き一掃キャンペーン」を実施することになりました。事業を開始するにあたり町田商工会議所、町田市中央地区商業振興対策協議会、町田警察署、東京都塗装工業協同組合及び商店街の協力のもと、7月15日に「第2回商店街落書き一掃キャンペーン」のデモンストレーションが行われました。

商店街落書き一掃作戦を開始します

今後の作業は、まず中心商店街から始め、8月から来年3月までの8か月間行います。その後、成果を確認しながら順次市内全域の商店街に拡大していく予定です。

この落書き一掃事業は、商店街の環境整備、落書き撲滅の啓蒙と併せて、この作業による新たな労働者の雇用創出をも視野に入れています。

今回の落書き一掃事業に係る経費は、人件費、材料費などを含め総額で540万円にもなります。落書きは街の美観を損なうだけでなく、それを消すために多くの時間と労力、お金を必要とします。

「落書きは犯罪です」。落書きを無くし、美しい街を作りましょう。

【商店街落書き一掃事業に伴うアルバイト募集】

市では落書きおとし作業を町田商工会議所に委託しています。その作業員を募集します。

対象 市内在住で18歳以上の方
期間 2002年8月から2003年3月31日まで(作業は月2〜3日程度)

時間 午前8時〜午後5時(予定)

作業場所 町田市内の商店街
人員 20人程度(登録制)

応募 8月15日までに本人が履歴書を持って直接商工会議所へ。詳細については後日、説明会を行います。

問 町田商工会議所 ☎722・5957

原町田六丁目再開発ビルが完成 - 公民館は10月オープン -



完成した原町田六丁目地区市街地再開発ビル

商業・文化の拠点に

原町田商店街の中心部に位置し、その核となる原町田六丁目地区市街地再開発ビル「町田センタービル」が完成、7月18日に寺田市長ほか多数の関係者が出席して竣工式が行われました。

市の再開発事業は1972年から始まり、小田急・JRの両駅の統合を目指した原町田地区をはじめ、原町田三丁目地区、原町田四丁目地区再開発の完了に続き、4か所目となり、事業開始から30年の歳月を費やした中心市街地の再開発は一段落を迎えることになりました。

この程完成した「町田センタービル」は国、都、市の協力のもと原町田六丁目地区市街地再開発組合が施行したもので、鉄骨鉄筋コンクリート造り、地下2階、地上8階建てで塔屋1階、延べ床面積は15,364.41平方メートルで地下2階は駐輪場など、地下1階から地上5階までは「109 MACHIDA」、1階から中2階までは区分所有者店舗、6階から8階までは10月1日にオープン予定の「まちだ中央公民館」が入り、中心市街地の商業・文化の拠点として街の活性化が期待されます。

また、都市基盤整備として町田駅から町田街道に至る都市計画道路3・4・11号線も近々整備完了予定で、来街者の一層の利便性が図られることとなります。

市長随筆

町田市長 寺田 和雄

その2 謡曲「横山」といのがあ

謡曲に「横山」といのがあ。作者は世阿弥とも観阿弥ともいわれていたが、今では観阿弥説に落ちついているようである。この「横山」の舞台はわが町田の小野路であって、主人公は小野路の庄を所領する横山十郎晴尚という鎌倉武士である。私の知る限り、謡曲にわが町田が現れるのはこの「横山」のほか見当たらないので貴重な存在である。惜しむらくは江戸期に廃曲となつてしまい、「横山」の存在を知る人はすくなくなつてしまつている。私は先年出版した自著「わが山旅、まちだ文学散歩」でこのことを紹介したことがあり、今回は二番煎じのようで恐縮するが、「その後」があるのでお許しを乞う。

晴尚は鎌倉公方の信を得て小野路の庄を所領し、ひところは鎌倉一の男よと羽振りもよかつたが、ふとしたことで公方の不信をかい所領ごとく没収され、妻と二人、草深い武蔵野に俺び住まいしながら疑いの晴れる日を待つ。

先ず曲は次のように謡い出す。

シテ「是は武蔵国の住人横山の十郎晴尚にて候。さる子細候ひて上意にもちがひ、本領悉く召し放されて、さんざんの疲労の身と罷成りて候。然れども從子にて候ふ久米川を在鎌倉せさせ候て公方へこの事を歎き申し候。か様に零落ては候へども、我若年より馬に好いて候ふ程に(略)

と始まる。ある日、この山里に初雪と名乗る女性が晴尚を尋ねて来る。晴尚が鎌倉に在られたころからの縁で、晴尚殿がこちらに居られると聞き、なつかしさのあまりお会いしたくて参りました。是非ひと目逢わせてほしいと、応対に出た晴尚の妻に懇願する。妻は草刈りに出ている晴尚に初雪の訪問を告げながら、晴尚は今も零落して見苦しい姿であり、会うことはできないと断る。妻は、自分の鏡は失つたが、いつの日か鎌倉へ戻る日もあつつかと、烏帽子直垂は用意してあるので、これを着て初雪に会うようにすすめる。晴尚は妻の心配りに思いをいたしながら初雪と会う。やがて鎌倉より使者あり、「將軍政所の下し、横山の十郎晴尚、本領武蔵国小野路の庄の事、もとの如くかの地に付せらるゝ所也。建久三年五月日」と読みあげる。一堂おおいに喜び、散り散りになつていた一族郎党も打ちそろい、妻も初雪も連れて、はるばるなりし鎌倉へと上りけりである。

謡曲「横山」のその後

私はこの「横山」をいつかの町田で再演できないだろうかと考えていたが、廃曲となつていたので到底無理だろうとあきらめていた。しかし、これだけ事実がわかつてくると全く不可能ではないかも知れない。いつか市民ホールで「能と狂言に親しむ会」などでやりたいものである。

次回は10月1日号に掲載予定です。



昔日の面影をのこす小野路宿